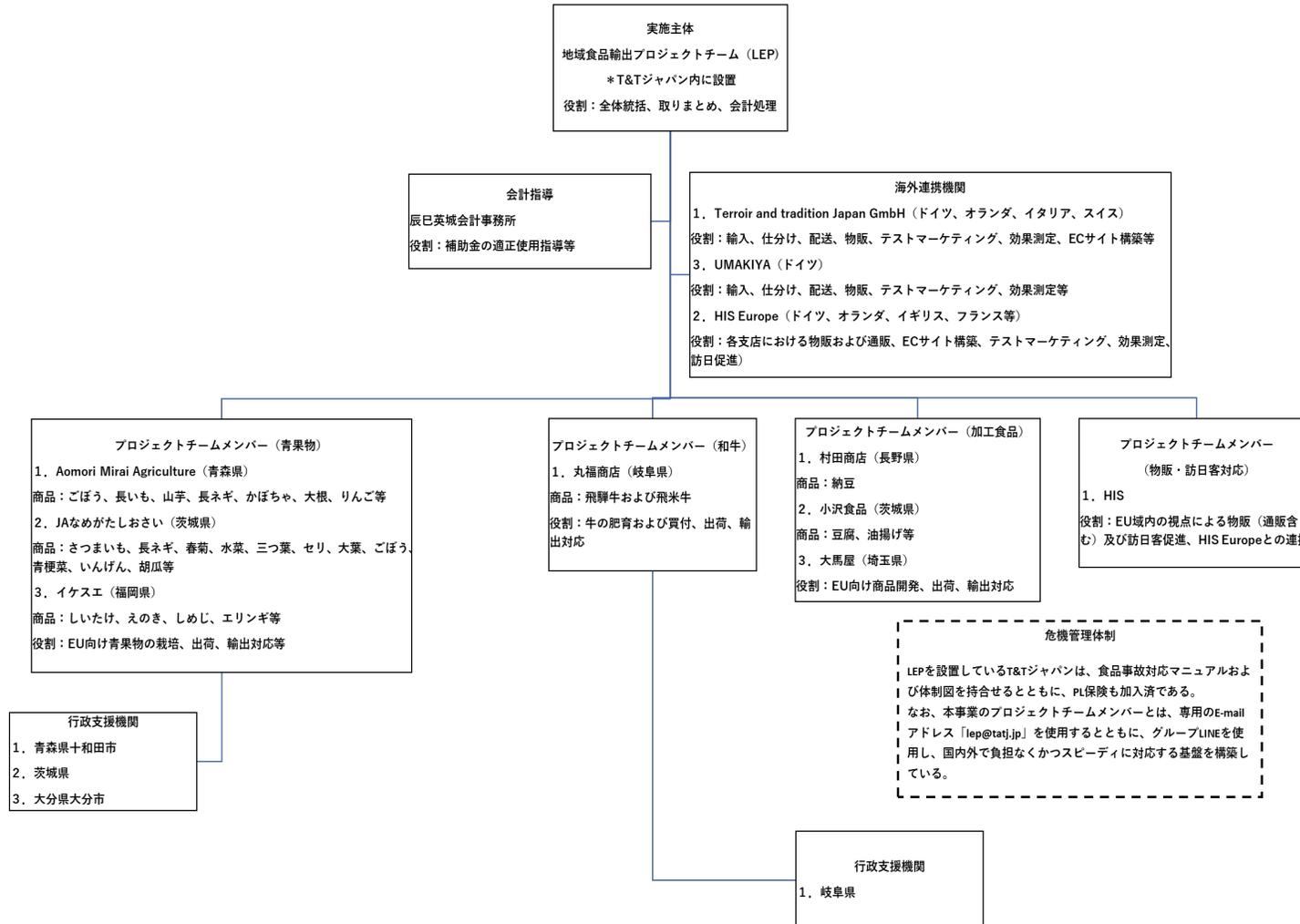




## 令和2年度海外フードバリューチェーン再構築緊急対策事業 実施報告

地域食品輸出プロジェクトチーム（LEP）  
（事務局：株式会社テロワール・アンド・トラディション・ジャパン）

事務局であるT&Tジャパンは、全国の製造業者や生産者等の共同出資会社であり、本事業は弊社内に設置している「地域食品輸出プロジェクトチーム（LEP）」にて取組むことにした。また、事務局の2020年度対EU青果物（冷蔵）輸出金額の約40%を占める強みを活かせるメンバーとした。



# 事業概要

## ■ 事業実施国

ドイツ（フランクフルト、デュッセルドルフ、ベルリン、ミュンヘン）を中心にイギリス、フランス等のEU諸国を想定

## ■ 実施内容

2019年の対EU農林水産物・食品の輸出額は、494億円と前年比3.2%増であり、これは2019年2月1日に日欧EPAが発効され、ほぼ全ての輸出充重点品目で関税が撤廃されたことも影響していたが、2020年は新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大したことから、2020年1月～11月の対EU農林水産物・食品の輸出額は、438億円と前年比▲2.6%となっている。ただ、2021年1月～7月までの対EU農林水産物・食品の輸出額は、前年同期比の45.4%増となっており、コロナ禍ではあるものの新しい生活様式に慣れ日常を取り戻し始めていることから、さらなる輸出増が期待される。

そこで、本事業では、2020年11月30日に策定された「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」を踏まえ、直行便による野菜および和牛、日配品等の賞味期限が短い食品について、マーケットインの視点に立った課題（商品の仕分け、冷蔵による配達、ECによる受注、和牛のスライス等）を解決した日本生協型宅配モデルを踏襲した、新しいビジネスモデルを構築することにした。つまり、日本の産地から海外の配送先までコールドチェーンを繋げた“国境を越えた産直”である。

その結果、コロナ禍においても日本産農林水産物および和牛、日配品の輸出がさらに拡大することが期待されるとともに、正しい和食文化が普及や訪日客増につながり、最終的に地域の食品関連事業者および地域が豊かになることを最終目的とする。

# 輸出先（EU）で日本産品を普及するための主な課題

## ■ 課題（輸出するにあたっての課題）

- ✓ 少量多品種の商品を供給する日本側の体制が整っていない
- ✓ 小ロットでの供給が難しい
- ✓ 低コストによる輸送方法が確立していない
- ✓ ロス率が低い鮮度保持した輸送方法が難しい
- ✓ 相手国における輸入食材の適切な取扱者が少ない

## ■ 課題（現地で輸入された後の課題）

- ✓ 仕分け場所と適切な保管場所の欠如

ドイツのルフトハンザ航空と戦略的提携を結んでいるANAでさえ、ハブとしているフランクフルト空港内に、そのような施設は持ち合わせていない。鮮度保持が重要な日本産品は、温度管理された場所での仕分け場所が必要。これにより、小分けし配達が可能となる。

- ✓ 日本式冷蔵車と輸送（配達）の欠如

日本のようなクール宅急便のサービスはほとんどなく、発泡スチロールに保冷剤を入れてお届けする仕組みが多い。しかし、不在の場合、保冷が効かなくなってしまうと、商品が劣化してしまう。ロスなくお届けする仕組みの構築が必要（個配および共同購入、ピッキング保管）

## ■ 課題（現地で輸入された後の課題）：続き

- ✓ 日本式冷蔵車と輸送の欠如（続き）

また、B to Bの輸送の場合、大手Nagel社においても、大型冷蔵車での輸送となってしまったため、企業や個人宅へ届ける場合、都度、小型冷蔵車に積み替え対応する。そうすると、積み替えによる費用および日数の負担が大きくなる。したがって、配達用小型冷蔵車の導入が必要。

- ✓ 和牛用スライサー及び食肉処理技術の欠如

和牛の普及をするためには、購入者が買いやすい規格で販売する必要があるが、現地には日本製のスライサーは少なく、生ハム用のスライサーを活用するケースが多い。その場合、非常にロスも多く、日本のすき焼きやしゃぶしゃぶのようなスライスには適しておらず、日本の食文化を広めにくい。また、食肉処理方法が日本と異なり雑であるため、専門家の育成の必要である。

- ✓ 直行便に合わせた日本産食材（青果物、日配品、和牛）の注文サイトの欠如

直行便に合わせて、現地購入者に鮮度など良い状態でお届けするWebを活用した注文サイトがない。日本の生協型個人宅配のようなサイト構築が急務（コロナ後、飲食の配達ではなく、食品の配達需要増）。

# 事業全体のイメージ図

**【コンソーシアム代表者】**  
テロワール・アンド・トラディション・ジャパン

全体の企画と統括、調整、輸出手続、現地実証  
および取りまとめを行う

**【コンソーシアムメンバー】**  
農林水産関係事業者

- 株式会社Aomori-Mirai-Agriculture (青森県)
- なめがたしおさい農業協同組合 (茨城県)
- 株式会社イケスエ (大分県)

畜産関係事業者

- 有限会社丸福商店 (岐阜県)

食品製造業者

- 有限会社村田商店 (長野県)
- 株式会社小沢食品 (茨城県)
- 有限会社大馬屋 (埼玉県)

\* LEPの中から重点品目及び相手国ニーズに合ったメンバーを選定

**地域食品輸出プロジェクトチーム (LEP)**

市場便等を使ったコスト  
軽減輸送によるANA羽田  
空港及び豊洲納品

↓

鮮度保持等の連携  
(荷受け24時間体制)

**【物流拠点：OCS (ANA羽田空港) 及び豊洲市場】**  
産地から最適な状態で東京に運ぶために、輸送会社  
であるOCSと連携し、ANA羽田空港または豊洲市場  
へ直送。豊洲市場においては、市場便を活用し、コス  
トおよびタイムロスを軽減できる (24時間荷受  
け)。また、輸送方法も日欧の気温や商品により、  
保冷の強弱を決め、最適かつコスト軽減をはかる。

輸出入

→

**【輸入及び仕分け、加工、自社配送】**

①T&T Japan GmbH  
②UMAKIYA  
両社とも輸入・卸・販売を担い、自社トラックにて配送。

仕分け

和牛スライス

日本生協型梱包および配達

従来のB to B卸および小売だ  
けでなく、コロナ禍における  
巣ごもり家庭内食増による  
「日本生協型個人宅配」にて  
新規需要獲得  
(日本生協型宅配モデル構築)

**【ECサイトによる受注・販売】**

①T&T Japan GmbH ②UMAKIYA ③HISヨーロッパ

受注間違いがなく、オンライン決済可のECサイトによ  
る注文受付。多言語、複数通貨によりEU域内に展開。  
HISヨーロッパは支店での物販とECを織り交ぜ、訪日  
客の取り込みも目指す (テストマーケティング実施)。

**【ハブ空港：ドイツ フランクフルト空港】**  
ANAが日本＝欧州間ネットワークに関する戦略的提携を  
締結しているルフトハンザ航空のお膝元。かつ、最も効  
率のよい深夜便の直行便があり、産地を出荷し2~3日後に  
EU域内のお客様のお届けできる。